

まつさか若者クラブ

2018 (H30) 年7月から約1年間、松阪の若者で将来の松阪市を考える「まつさか若者クラブ」を開催しました。2019 (R1) 年8月末に1年間の話し合いの報告が行われました。その中では、総合計画と同じ、7つの政策分野の提案や、子育てに関する具体的な取組の提案などの報告がありました。

今回、若者クラブの報告の一つである松阪市の将来のための4つのプロジェクトについて紹介させていただきます。

(他の報告について興味のある方は是非HPから検索してください。)

MYC2nd 報告書(一部抜粋) 【躍動せよ松阪】～30年後のその先へ～

松阪市をささえる7本の柱や子育てに関する具体的な取組を考えるなかで、30年後のその先を考えるにあたり、「将来の納税世代」を生み出していく必要があるという結論に達しました。そのための取組として4つのプロジェクトを提案します。

若者クラブからの4つの提案

①雇用×市民活動 ソーシャルビジネス

【Social Akinai 地域が活性ぐ力、地域の稼ぐ力】

市民活動を通じて、松阪市の地域課題を抽出し、ソーシャルビジネスとして雇用に繋げることで、地域課題を解決しながら活性(稼)ぐまちにしていく。

②文化×体験 シティプロモーション

【Machi Promotion 文化体験型の情報発信】

ただの観光ではなく、イベント等での体験型シティプロモーションを通じて、松阪市の歴史・風土や特産物のファン・理解者を獲得し、ダンスやスケートボードをはじめとする特色あるスポーツのクラスタとも歩んでいく。

③子ども×自然

【Grown Matsusaka 子どもへの「山と心」の教育・自然と育つ「未来の大人」育て】

現代的に管理された子育てと、昔ながらの自然に近い子育ての良いところ取り。
保育・教育機関と第一次産業とのタイアップで自然との距離を縮め、自然環境保全への意識や未来の松阪の人と自然を育てる。

④教育×経済 イノベーターの育成

【Suzunoya 2.0 教育×経済】

本居宣長の学問と、三井高利の先進的な商いからヒントを得る。義務教育での郷土愛形成、大学の誘致や産学シンクタンクの整備による市内での環境醸成、市内での先進的なベンチャー支援等、教育と経済産業の両分野から活性化を図る。